



▷ニュース・話題は
 江別支局 ☎382・2111
 FAX 383・5230
 ebetsu@hokkaido-np.co.jp
 報道センター ☎210・5555
 FAX210・5556
 sapporo@hokkaido-np.co.jp
 ▷購読は道新販売所へ
 大 麻(熊木) ☎386・0222
 野 幌(巻口) ☎383・7155
 野幌南部(藤井) ☎385・3366
 江別西部(梶) ☎382・7411
 江別東部(近藤) ☎391・0533
 江別中央(松森) ☎382・7887
 新 篠 津(上田) ☎0126・57・2214
 ▷広告の問い合わせは
 広告局 ☎210・5710

江別の発展 大学と共に

市内学長ら招き特別シンポジウム

【江別】市内4大学の学長らをパネリストに招いた特別シンポジウム「大学との連携による江別市の可能性」が北翔大を会場に開かれた。各学長らは、大学や学生と地元企業などが互いにもっと知り、特長を生かし合うことで江別をもっと元気にし、地元の良さをアピールしていけるなど展望を語った。(近藤達人)

道中小企業家同友会札幌支部江別地区会(星勝彦会長)の例会を兼ねて18日に行われ、三好昇市長や一般市民も含め約100人が参加した。

パネリストは札幌学院大の鶴丸俊明学長、北翔大の西村弘行学長、道情報大の沢井秀副学長、酪農学園大の干場信司学長で、奈良幸則ナラ工業社長がコーディネーターを務めた。

まず各大学が「札幌で開学した大学の沿革もあり、これまでは札幌を向きがちだったが、今は江別を大切にし地元との事業も増やしたい」(鶴丸学長)、「道内一のスポーツ施設があり、食とスポーツを生かして地域の健康増進に貢献したい」(西村学長)、「ITやインターネッ

北翔大 運動施設生かす 西村学長 地元事業増やす

トを使った江別の魅力発信のほか、医療分野もあり、機能性食品の研究を通じて江別市民の健康づくりを進めたい」(沢井副学長)、「江別も含め道内の酪農業とは強い結びつきがある」(干場学長)とそれぞれの特徴を説明した。



「4大学合わせた学生数は人口の1割近くで全国的にも高い比率。ただ、江別に住んでいると実感する機会が少ないのは」(干場学長)と指摘もあり、対処の一つの手段として、学生のインターンシップについても話し合った。学長らは「市外出身の学生が江別に溶け込み、社会を知る方法の一つとして期待したい」としたうえで、「教育的指導の配慮もしてほしい」という指摘や、民間企業での経験も長い沢井副学長は「人のつながりができることが最も大切。学生を受け入れるのは大変だが、企業の皆さんは覚悟の上で取り組んでほしい」と要請した。

酪農と結びつき 酪農学園大 健康づくり推進 沢井副学長

また、学生たちが検討している市内施設ツアーなどに地元企業を受け入れてはどうかという提案や、近年の学生は仕事の中身次第で中小企業にも関心を持っているという紹介もあった。

企業側からは「仕事の計画を立てて、学生さんをインターンシップで受け入れるような企業になりたい」「自分のしたいことをしやすいのが中小企業の魅力」という意見が出された。

奈良社長は最後に「大きな鍋で大学と企業が煮詰まると、江別活性化の鍋ができあがると思う」と締めくくり、今後の協力を継続したいとした。

大学と江別の可能性を探ったシンポジウム。左から、鶴丸札幌学院大学長、西村北翔大学長、沢井道情報大副学長、干場酪農学園大学長。右端は奈良社長